

目的意識 の醸成

明確な目的意識が 主体的な学びを促します

小学校・第3学年 算数

「かけ算のひっ算」導入

本時のねらい
2位数に1位数をかける計算の仕方を理解する。

**新潟市の
生徒指導**
子ども一人一人の
成長を促すために
(生徒指導リーフレット)

**新潟市の
授業づくり**
(授業づくり
リーフレット)

目的意識

「友達は何を困っているのか分かるかな」と問い、明らかになった課題をみんなで協力して解決するのだという意識を育みます。その際、友達の考えを**共感的に受け止める発言を評価**することが大切です。

自己決定 個性・能力

見通しで出された考えを以前使った方法だね」など**受容し価値付ける**ことが、自己決定を促し、自信をもって解決させることにつながります。さらに、子どもの考えを生かしながら解決に向かわせることで、個性・能力を発揮させます。

学習課題

「九九では答えが出せない」という子どものつづがやきやきや発言をもとに、全体での問題意識を高め、本時のねらいに迫る学習課題を設定します。算数では、既習内容との違いから課題を明らかにする展開では、「これまでの学習と違うところはどこ？」と問うことで、本時の課題を明らかにすることができます。

見通し

既習内容やこれまでの経験を想起させることで、図でかけば答えい九九の学習で使った方法でやるうかな」という解決の見通しもたせ、自力解決に向かわせます。

〇月〇日 (〇曜日)

1枚13円の色画用紙を4枚買いました。代金は、全部で何円でしょうか。

式 13×4

図でかくと...
たし算でできる?

お金
数に分ける
13を10と3に

(2けた) \times (1けた)の計算

学習がだい

13 \times 4の計算はどのようにすればいいのだろうか。

学習課題を
板書で示すことは、
目的意識を持続させる
ことにつながります。

学習課題は、
「(2けた) \times (1けた)の計算」
という形で一般化することが望ましいですが、
発達段階や児童の実態によっては、
具体で示した方がよい場合もあります。



今日の問題は、「1枚13円の色画用紙を4枚買いました。代金はいくらかでしょうか。」です。どんな式になりますか。

ひると:「13円が4つだから、 13×4 だ。」

たかし:「でも、答えが分からない。こまったなあ。」

たかしくんを助けてあげられる人はいるかな? たかしくんが何を困っているのか、分かる? 今までの学習とちがうところがあるのかな...

まい:「九九じゃ答えが分からないから困っているんだと思うよ。」

りょう:「かけられる数が13になっているところと今までのちがうよ。」

いいところに気がつきましたね。今までは1けただったものね。では、今日の課題は「 13×4 の計算はどのようにすればいいのだろうか」にしましょう。かけられる数が2けたになったところが新しいね。どのような方法で代金は求められそうですか。

ようこ:「〇の図をかけばいいと思います。」

ひると:「かけ算はたし算でもできたから、たし算できると思うよ。」

はるか:「九九のときに、数を分けたから、13を10と3に分けて...」

前に使った方法ですね。使えそうな考えがたくさん出てきましたね。では、代金を求められそうな方法を選んでみましょう。

<自力解決> え り:13を分ける方法でやってみようかな...
しょう:お金方式できそうです。十円玉と一円玉で...
たかし:ほくほく、〇の図をかこう。

では、始めます。今日は、 13×4 の計算の方法を考えましょう。

どうして計算の方法を考えるの?

教師から一方的に与えられた問題に答える学習や、教師の指示によって進められる学習では、子どもの主体的な学びは生まれません。

授業の導入部分では、子ども一人一人に具体的な目的意識や見通しをもたせるように働きかけることが大切です。

自己決定を促す

自己決定を促し適切に判断する力を育みます

小学校・第3学年 算数

「かけ算のひっ算」まとめ

本時のねらい
2位数に1位数をかける計算の仕方を理解する。

新潟市の生徒指導

子ども一人一人の成長を促すために
(生徒指導リーフレット)



新潟市の授業づくり

(授業づくりリーフレット)

目的意識

個人の問題意識を学級の問題として共感的に受け止めさせ、明らかになった課題をみんなで協力して解決しようという意識を育みます。

自己決定 個性・能力

見通しで出された考えを受容し価値付けすることで、自己決定を促し、自信をもって解決に向かわせます。

学習課題

子どものつづきや発言をもとに、子どもとともに本時のねらいに迫る学習課題を設定します。

見通し

既習内容やこれまでの経験を想起させることで、解法の見通しをもたせます。明確な見通しが自力解決を促します。

いろいろの方法がありますが、どれも正しいやり方でしたね。最後に19×9をやりましょう。どの方法を使うとかんたんにできるかな。

しょう：1円玉を9まいもかくのは大変だ。位ごとに分けて、かけ算すれば、かんたんに答えが求められる。

たかし：やっぱり、位分け方式がいいみたいだな。

かんたんに計算する方法が見つかったようですね。では、今日の授業のまとめをしましょう。13×4のようなかけられる数が2けたの計算はどのようにすればいいでしょうか。

まい：「位分け方式で計算します。」

ようこ：「一の位と十の位に分けて計算します。」

(2けた)×(1けた)の計算は十の位と一の位に分けて計算すればいいですね。たかしくんが「こまっとな」と言ってくれたおかげで、みんなもよく分かったね。

たかし：「ばく、算数がちょっと好きになった気がする。」



〇月〇日 (〇曜日)

1枚13円の色画用紙を4枚買いました。代金は、全部で何円でしょうか。

式 13×4

たし算でできる？

図でかくと…

お金を方式で

10×9=90
9×9=81
90+81=171

13×4の計算はどのようにすればいいでしょうか。

ようこ	まい	たし算方式	はるか	金貨方式
3000×3000 2000×2000 1000×1000 5000×5000	13×13=26 13×11=143 13×11=143 13×11=143	13 13 13 13 ----- 52 52 52 52 ----- 52	13 13 13 13 ----- 52 52 52 52 ----- 52	1000+1000 1000+1000 1000+1000 1000+1000 ----- 4000 4000+200 4000+200 4000+200 ----- 5200

本時のまとめ
13×4のような(2けた)×(1けた)の計算は、十の位と一の位に分けて計算するとよい。

かかわり 言語活動

かかわりの場では、気付きや考えの共有化を図ります。図や式、言葉の式などを関連付けて読み取ったり、説明したりすることを大切にします。

協同性

個人の疑問や考えを全体に広げ、かかわり合う目的をはっきりさせます。かかわり合っ解決したことのよさを評価し、かかわり合うことの大切さを実感させます。

まとめ 振り返り

かかわりや類題を解決する過程を通して子どもが得た「位ごと」に計算すれば、簡単にできそうだな」という考えをもとに、本時のまとめをしよう。学習課題に正対するように板書することで、全員で本時の学びを確認します。

それぞれの解法をよさを考えたり、類題を解決したりすることを通して、よりよい考えを選択します。19×9のように、選択させたい考え(位分け方式)以外の解法では、手間がかかるといった問題を提示するほか、「簡単にできるのは」 「正確に求められるのは」などの観点を示すことも有効です。

目的意識

本時の学習課題に立ち返り、本時の課題が確かに解決できたかどうか確認するよう促します。導入段階で困っていたたかしくんを含め、みんなで力を合わせて課題が解決できたことを確認することで、子どもに達成感を味わわせま

自己決定

「簡単にできそうだな」「正しく解決できる」などの観点からよりよい方法を選ぶように促すことで、自分なりに判断する力を育みます。また、自己決定する際の様子を的確に見とり、評価します。よりよい方法を選択するだけでなく、実際に類題を解決してみることが、「よりよい方法でできた」という自信や満足感を得ることにつながります。

自己決定場面での適切な判断は、よりよいかかわりによって促されます。やり方(手続き)だけでなく、その意味や、一つ一つの考えのよさを十分に理解させることが大切です。



類題の解決状況から、ねらいの達成状況を確認できるほか、本時のかかわり合いが有効であったかどうかを確認することもできますよ。

目的意識の持続

目的意識の持続で主体的な学びを促します

中学校・第3学年
国語

「ネット時代のコペルニクス」(論説文)

ネットからのコピーと本の引用とについて、筆者がそれぞれの長所や問題点に着目して捉えていることが理解できる。

自己決定 個性・能力

主体的な学習態度を育てるためには、課題に対する自分の考えを明確にさせることが大切です。まず自力解決の時間をしっかりと確保し、根拠となる叙述に線を引かせて通して、自分の考えに自信がもてるように支援します。そうすることで、その後の全体の練り上げに、生徒が主体的に参加することが可能になります。

協同性

一人一人がしっかりと考えをもち、話し合い等を通して、考えを練り上げていきます。

本時場面では、正しいかどうかという視点よりも、100%の考えに、付け足した点など、互いの考えを補い合うことが大切です。一人一人がグループで学ぶことの実感させることができます。

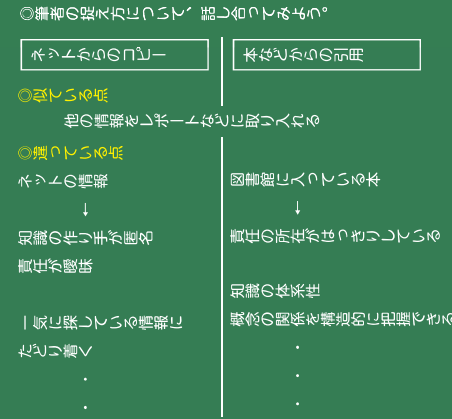
また、協同性を育むためには、多様な考えを互いに認め合える学習風土をつくることも大切です。

言語活動 かわかり

筆者の捉えを明確にするというねらいを達成するために、それぞれの考えをもちよらせながら話し合いの場を設定します。本時では、「似ている点」「違っている点」というように、課題に迫るための観点を明確にした話し合いを組織します。

今日のまとめ

筆者の捉えでは「ネット・コピー」は「本」の引用ではない。



まとめ 振り返り

まとめには、全員で確認し、押さえるべき内容をしっかりと書きます。板書をせず、生徒個々がノートにまとめを書いて終わりになります。理解が不十分な生徒は、そのまま不十分な理解で学習が終わってしまふ可能性があります。

自己決定

グループや級全体の力を結集して整理されたワークシートや板書を書いたり、学習課題に対する最終的な自分の考えをまとめさせます。最初の考えを見直し、補正したりして、自分の考えをより深めてまとめ、生徒は学び合うことの意義を再確認することができます。



新潟市の授業づくり (授業づくりリーフレット)



新潟市の生徒指導 (生徒指導リーフレット)

子ども一人一人の成長を促すために

学習課題 見通し

◆単元を書く課題意識 「筆者の主張の仕方を学んで、身近な話題について論説文を書いてみよう」



本単元では、教材文から筆者の主張の仕方を学んで、身近な話題について論説文を書いてみるのでしたね。

ツヨシ:「この教材文の筆者の主張って、何だろう。」
ユウコ:「主張の仕方を学ぶためには、まず筆者の主張が何かを確かめる必要があると思います。」



良いところは、教材文が筆者の主張の仕方を学んで、最初ネットからのコピーと本の引用とを比べているから、まず筆者の2つのものに対する捉え方を確認してみたらどうかな。

ジュン:「比べているところに線を引いて、見つけたものを整理してあげば、筆者の捉え方が見えてくるんじゃないかな。」



イワオ:「それなら、違いが比べやすいように、対比する形でまとめるといいよ。」
トオル:「一人でもれなく見つけるのは、何だか自信がないなあ。」



なるほど。それならみんなが見つけたものを班やクラス全体で話し合っ、1つにまとめよう。自分一人ですべて見つけられなくても、みんなが見つけたものを合わせれば、きっと筆者の捉え方がよく分かると思うよ。

ユキエ:「じゃあ、今日みんなでも追究する学習課題は、「筆者は2つのものをどのように捉えているか」ということになりませぬ。」

◆本時の学習課題 「教材文で筆者は、コピーと引用をどのように捉えているのだろうか」

目的意識 (課題意識)

単元を書く課題意識に沿った生徒の発言を評価しながら、本時の課題を焦点化していきます。それによって、与えられた課題ではなく、生徒が自分たちで課題を割りあけていくという意識がもてるようになります。

みんなの力を合わせて学習を深めようという方向性を示すことで、自信のない生徒の不安を取り除くとともに、クラス全体に学び合いの姿勢をもたせよう。

毎時間、教師側から一方的に与えられた課題や指示によって進められる学習では、生徒の主体的な学びは生まれません。生徒が学習への具体的な目的意識や見通しをもてるようにすることが大切です。上記のように、1時間1時間の学習課題は、単元を書く課題意識の下で、より焦点を絞った形で設定することが大切です。そうすれば生徒は、「最終的に、学んだことを基に論説文を書く」「そのために必要な逆べ方を教材文を使って学習する」という、見通しや課題意識を持続させながら、各時間の学習に臨むことができます。その際、自らに目的意識をもって学習する態度を育てることに注目があります。

自己決定を促す

見通しが自己決定を促し、主体性を育みます

中学校・第2学年
数学

「二等辺三角形の性質」

本時のねらい
三角形の合同を利用して、角の大きさが等しいことを証明することができる。



新潟市の生徒指導

子ども一人一人の成長を促すために
(生徒指導フリーレット)

目的意識

辺の長さが等しいとどうして2つの内角が等しいといえるの?と理由を問う、生徒にとっては既知の性質を論理的に証明することが本時の目的であることを確認させます。



新潟市の授業づくり

(授業づくりフリーレット)

学習課題

二等辺三角形の性質を「仮定」と「結論」に記号化し、「証明」するためにどのような考えればよいか」を学習課題として設定します。

〇月〇日 (〇曜日)

教科書 P110

補助線 $\angle A$ の二等分線をひき、BCとの交点をDとする。

方針①
 $\triangle ABD$ と $\triangle ACD$ の合同条件
[2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいとき]を利用する。

補助線 BCの中点をMとして、ACを結ぶ。

方針②
 $\triangle ABM$ と $\triangle ACM$ の合同条件
[2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいとき]を利用する。

学習のまとめ 二等辺三角形の性質は三角形の合同を利用すれば証明できる。



振り返り

2つの方針での証明を振り返ることで、本時の学びを確認します。複数の証明に共通する数学的な考え方を学習のまとめとします。
また、生徒に2つの証明を比較させて自分の考えを振り返るよう促します。

見通し

「方針①」との対比により、補助線のひき方が異なる場合の証明の方針②を自分の力で立てることで、証明への意欲がさらに高まり、見通しをもつことができます。

自己決定

見通しをもてずに困っていることや既習事項をクラスで確認する場面を設定することで、生徒が主体的に証明に取り組むやすくなります。その上で一人で考えさせる場面を意図的に設けることが、自分で根拠をもって判断する力を育成します。

見通し

補助線と頂点の記号、合同な三角形と利用できる合同条件(方針①)を提示します。証明に見通しをもたせ、自力解決を促します。

個性能力

生徒理解に基づき、一人一人の考えや表現を意図的・計画的に生かすことで、学習活動への自己存在感や主体性が高まります。

ヨウコ: 「証明しろ」って言われても...、どこどこが等しいかわからないよ!

ケンジ: 「図の中に印をつけていたら見つかるよ。」

ツヨシ: 「AB=ACは仮定からいえるけど、もう1組はどの辺かわからないよ。」

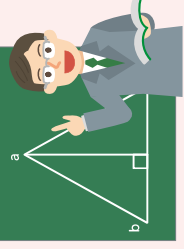
トオル: 「ADは1本の辺だけど、2つの三角形の辺として使っています。」

ミチオ: 「2時間前の証明で、AC=ACと書いたことがあります。」

ユキエ: 「そうそう、99ページの証明に書いてあります。」

ツヨシ: 「はい、もう1組の辺と書き方がわかりました。」

ヨウコ: 「なんとなく書けそうです。」



個性・能力

解法の比較場面を意図的・計画的に設定することが、生徒一人一人の個性を認めたり、能力を発揮させたりすることにつながります。

自己決定

方針を立てる活動は、目的意識を強め、自分で判断する力を育成します。
証明①では、自力で証明できなかった生徒も、対比により自力で解決できる達成感を味わうことができます。

協同性

友達と協力して証明の方針②や証明記述を検討する場を設けることで、子どもたちの協同性が育まれます。

本時の
光の反射の実験を行うことを通して、光が反射するときの
ねらい
規則性を見いだす。

**新潟市の
生徒指導
成長を促すために
(生徒指導
リーフレット)**

目的意識
「どこが疑問?」「いい気持ちだね!」などの言葉がけで、生徒の
思いを顕在化させ、意欲や気付
きを評価します。

自己決定 個性・能力
「何が関係しそうかな?」「なるほど、そう考えた
んだね!」「いい方法だね!」などの言葉がけで、つま
ず
の解消への支援をし、自力で決めたことや自分
らしさを発揮したことへの賞賛や評価をします。

**新潟市の
授業づくり
(授業づくり
リーフレット)**

学習課題
当てるの事象提示や試行活動を通して
て、「入射角と反射角のきまりを明
らかにする」ことを目的とした学習課
題を設定します。

見通し
予想や仮説を立てる場
を設定することで、追究への見
通しをもたせます。

○月○日(○曜日)
光を鏡で反射させて、
一発中での的に当て
よう

鏡に映ったのに向かって光を
出すと、光は必ず的に当たる!
光源設置、鏡、的
置き方を覚えても、
必ず当たる!

きまり

(課題)
光が鏡で反射するときに、光の
進み方にはどのようなきまりが
あるのだろうか?

結果・考察	1班	2班	3班	4班	5班	6班
	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□

(まとめ)
鏡に映る像に
向かって光を
出す
反射の法則
光が鏡で反射するとき、入射角と
反射角が等しくなるように光は進む
入射角 = 反射角
入射光
反射光
(振り返り)

振り返り
「分かったこと」や「学んだことのよ
さ」について振り返る活動を通して、学
んだことの価値付けを行います。

まとめ
学習課題と正対し、
本時の学習内容を整理
して板書します。

自己決定
「どういう結論になったの?」「結論の根拠は
何?」「その考え方はすばらしいね!」など、生徒
の自力解決を促すとともに、賞賛もします。

目的意識
「いい追究だったね!」「工夫して実験したね!」「グループでの
話し合いがすばらしいね!」など、追究に対する達成感をも
たせ、新たな追究への意欲につなげます。

かかわり 言語活動
グループでの追究や、全体での交流、検討などを意図
的に設定します。その際、文字や図、表などを適切に活
用して考えをまとめ、伝え合うように働きかけます。

【グループでの考察場面で…】
光の反射のきまりについて、グループで
話し合っ、全員が納得できる考察にま
とめなさい。
ケンジ:「入射角と反射角はだいたい等しいね。」
タカシ:「角度が1~2°ちがっている結果があるんだ
けど…。だいたい等しい!」ってことは「15よ
っとちがう!」ってこと?よく分からないよ。」
タカシ:「なるほど、そう考えると納得できたよ。」
ケンジ:「僕もそう思う。だから、入射角と反射角は「だいたい」じゃなくて
「必ず」等しいと言えるよ。」
タカシ:「なるほど、そう考えると納得できたよ。」
タカシ:「入射角と反射角は等しいか?」
ケンジ:「僕もそう思う。だから、入射角と反射角は「だいたい」じゃなくて
「必ず」等しいと言えるよ。」
タカシ:「なるほど、そう考えると納得できたよ。」
タカシ:「入射角と反射角は等しいか?」
ケンジ:「僕もそう思う。だから、入射角と反射角は「だいたい」じゃなくて
「必ず」等しいと言えるよ。」
タカシ:「なるほど、そう考えると納得できたよ。」

【全体での交流・検討場面で…】
タカシ:「3班は、入射角と反射角を分度器で測って、3回比べました。その
結果、入射角と反射角が等しいか?」以内の差だったので、差は誤差
と考えて、「入射角と反射角は等しい」という結論になりました。」
ヒロシ:「4班です。他の班と同じです。」
ケンジ:「3班は、入射角と反射角を分度器で測って、3回比べました。その
結果、入射角と反射角が等しいか?」以内の差だったので、差は誤差
と考えて、「入射角と反射角は等しい」という結論になりました。」
ヒロシ:「4班です。他の班と同じです。」
ケンジ:「僕もそう思う。だから、入射角と反射角は「だいたい」じゃなくて
「必ず」等しいと言えるよ。」
タカシ:「なるほど、そう考えると納得できたよ。」
タカシ:「入射角と反射角は等しいか?」
ケンジ:「僕もそう思う。だから、入射角と反射角は「だいたい」じゃなくて
「必ず」等しいと言えるよ。」
タカシ:「なるほど、そう考えると納得できたよ。」

自己決定
「どういう結論になったの?」「結論の根拠は
何?」「その考え方はすばらしいね!」など、生徒
の自力解決を促すとともに、賞賛もします。

目的意識
「いい追究だったね!」「工夫して実験したね!」「グループでの
話し合いがすばらしいね!」など、追究に対する達成感をも
たせ、新たな追究への意欲につなげます。

協同性
日ごろから、
生徒同士の間滑らかな関係づくり
に努めることが、授業での協同性の育成に
つながりますね。

協同性
グループ全員が納
得し、1つの考えにま
とめていくように働
きかけます。

協同性
疑問の素出や仲間
を助ける発言を拾い
上げ、生徒の話し合いを
深めます。

協同性
中間の発表との比
較や関連付けを促し、
発表の改善、工夫を評
価します。

協同性
中間の発表との比
較や関連付けを促し、
発表の改善、工夫を評
価します。

自己決定を促す

見通しをもたせることが自己決定を促します

中学校・第1学年 保健体育

「バスケットボール」

本時のねらい 自分たちのチームに合った「パスをもらう人の動き」ができる。

新潟市の生徒指導

子ども一人一人の成長を促すために
(生徒指導リーフレット)

新潟市の授業づくり

(授業づくりリーフレット)

目的意識

勝つために動きを工夫することが楽しい運動です。工夫の内容をパスをもらう人の動きに絞ることで目的意識をより明確にします。苦手な子どもも考えることが限定されるので、抵抗感も少なくなります。

学習課題

勝つためにパスが必要なゲームを提示し、「パスをもらう人の動き」に絞った学習課題を設定します。

○月○日 (○曜日)

パスを使って勝利をGET!

- <どんな方法で解決できそうか>
- パスをもらう人の動きを工夫する。
- ストップ&ターン
- 声を出さず手を上げる

<ゲームの概要>

- ・3対3のゲーム、1チーム6人
- ・攻める時間4分ずつで攻守交代
- ・半コート使用のゲーム
- ・守りの1人はゴール下のハンドルのように顔時相取可。

本時の学習課題 / 自分たちのチームに合う「パスをもらう人の動き」はどれだろうか。

学習の流れ

- ①ドリブルゲーム(5分)
- ②動きの決定(5分)
- ③ゲーム1(10分)
- ④ゲーム2(10分)
- ⑤ゲーム3(10分)
- ⑥本時初めてにした動きの成果と次時の動きの検討(5分)

本時の振り返り / 自分たちのチームに合った「パスをもらう人の動き」は○○だ。

本時の振り返り / パスが成功して勝てたかった。次は○○チームと挑戦したい。

振り返り まとめ

トオル:「パス&ダッシュをパス&エージェント+ダッシュにするともっとよくなる。」

ヨウコ:「ストップ&ターンの動きが少し遅いもう少し早くしよう。」

ジュン:「声を出し、手を上げてくれるけど、相手のマークが厳しくて難しい。ストップ&ターンに変えよう。」

言語活動

ゲーム中及びゲーム2と3の間に、決めた動きが自チームに合っているかどうか話し合えます。一人一人の気付きや考えの共有化を図ります。

かかわり

ゲーム中及びゲーム2と3の間に、決めた動きが自チームに合っているかどうか話し合えます。一人一人の気付きや考えの共有化を図ります。

目的意識

大切な動きを明確にしてゲームをする中で、「同じ動きをみんなに速くできるようにしよう」「今度は○○の動きをみんなで頑張ろう」など、改善案が明確になり、次時のゲームへの期待感も高まります。

自己決定

チームとして大切にすべき動きを明確にしてゲームをさせることで、自分の動き、チームのメンバーの動きを、的確に振り返ることが容易になります。それが、次の動きやどんな工夫をすればよいかを決定することにつながります。

見通し

3つの動きから選択させることで「自分たちに合うのは○○だ」「○○ならできそうだ」という見通しをもたせます。

自己決定

前時までのゲームを参考に、チームでの動きを決めます。教師が提示した**実態に合った動きの例から、自分のチームのメンバーに合った動きを決定**することで、自己決定が行いやすくなり、子どもの主体性は高まります。

個性・能力

ここではあえて、チームで一つ絞らせるように奨励します。一つに絞ることで決めやすくなるだけでなく、振り回しや教え合い、励まし合いも容易になります。

パスを成功させるための、パスをもらう人の動きがいくつかあります。チームで一つ、動きを決めてパスを成功させましょう。

パス&ダッシュ、ストップ&ターン、声を出して手を上げる、の3つの中で、自分たちのチームに合う「パスをもらう人の動き」はどれでしょうか?

Aチーム:「パス&ダッシュにしよう。パスですぐ動けば空いているスペースに行ける。分かりやすい!」

Bチーム:「ストップ&ターンにしよう。空いているスペースに動くには、マークをはささないでダメ。キャッチはできている!」

Cチーム:「声を出して手を上げるにしよう。パスキャッチのミスが多いから。キャッチの準備にもよい!」

Dチーム:「パス&ダッシュ+声かけにしよう。パス&ダッシュはできているけど、タイミングが合わないから!」

【全体での交流・検討場面へ…】

◇なかなか決められないチームへの助言

まずは一つに絞ってゲームで試してみよう。どうしても人によって変えた方がいい場合は、そこで修正しましょう。

◇リーダー的な子どもが決めてしまったチームへの助言

その動きを選んだ理由は何か? チーム全員で確認するといいな。

◇前時までの様子から考えて、明らかに間違っていた選択をしたチームへの助言

前の時間の様子だと、課題は○○ですね。そうすると、その動きは課題解決に合っていますか?

●ここではあえて、チームで一つ絞らせるように奨励します。一つに絞ることで決めやすくなるだけでなく、振り回しや教え合い、励まし合いも容易になります。

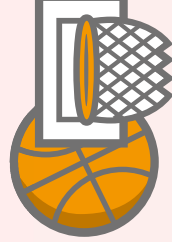
●決めたいチームには2つまでは認めます。全員が違うなど多様さがあると振り回しや教え合い、励まし合いも容易になります。

●提示する動きは、前時までに子どもが発見したものを教師がゲーム中の子どもに紹介して、その動きを基にします。「○○さん」が上手に決まっていたパス&ダッシュ「○○さんが得意なストップ&ターン」というように賞賛→提示 となるようにします。

●ゲームを通して修正することが重要なので、決めた動きの妥当性はここではあまり問いません。しかし、決まらないリーダー1人が一方的に決めるなどは、その後の活動にも支障があるので、チームごとに説明します。

協同性

「ドリブルなし」「チームメンバーは3人」などのルールの中で、パスの必要感を高めさせます。本時はパスをもらう人の動きに絞ることで、仲間との教え合い等が行いやすくなります。



目的意識 の継続

探究的な単元構成で 目的意識をつなぎます

小学校・第4学年
総合的な
学習の時間

「川のメッセージ」

地域の川で活動することを通して、新たな気付きや疑問をもち、調べや疑問をもち、調べる観点や課題を設定する。
・友達と協力して地域の川について調べたり、自分たちができること、地域などに働きかける。
・調べたことや考えたことをまとめたリ、発表したり、振り返りたりすることを通して、地域の川について自分の考えをもつ。

新潟市の
生徒指導
子ども一人一人の
成長を促すために
(生徒指導リーフレット)



新潟市の
授業づくり
(授業づくりリーフレット)



目的意識

単元を通して子どもが目的意識をもつようにします。対象と直接 かかわり、興味・関心や疑問などを生かして、子どもとともに探究の方向をつくっていきます。

【単元導入のポイント】

・活動場面の観察や活動後の作文シートの記述から、子どもの行為や思いを共感しながら受け止める、意欲を引き出します。
・やってみてほしいことを解決するための方法を子どもが考えられるように働きかけます。

この川は、魚がたくさん泳いでいるよ。トンボもいるよ。

またこの川に来て、魚をつかまいたいな。

よく見つけたね。どうしてだろう。他にどんな生き物がすんでいるかな。

また来てみたいいな。今度は来る時、どんな物をもってくるといいかな。

川の 上流

こんなたくさん魚がすんでいるのは、水がきれいだからかな。少し上流にも行って、生き物を探してみよう。

どんな魚がいるのかな。もっとつかまえてみたいいな。今度は来る時は、夕毛をもってこよう。水中めがねもあるといいな。

川がまた来てねと言っているよ。楽しかったし、すごく気持ちよかった。学校に戻ったら、このことを作文シートに書こう。

石を並べて魚を追い込んで、つかまえるよ。友達と一緒にやってみよう。

かかわり 言語活動

振り回り まとめ

目的意識

【学級で追究する課題設定のポイント】

・子どもの思いを言葉に表し、自分事として実践や原因を探る意欲へとつなげ、学級で追究する課題を設定します。
・情報の収集、整理・分析の方法を提案します。

同じ川なのに、ここはどうしてこんなに汚いのかな。

川は、あなたにどうして汚いかな。ゴミや油、洗剤を流すよ。水質を調べると、汚いよ。水質を調べると、汚いよ。水質を調べると、汚いよ。

場所によって、水質にはどのくらいの違いがあるのかな。

水質を調べると、汚いよ。水質を調べると、汚いよ。水質を調べると、汚いよ。

川の 下流

川が「助けて」と叫んでいるよ。どうしてこんなに汚いんだ。どのくらい汚れているんだ。

バックテストで水質を調べると、どうだろう。

調査結果をマップにまとめてみたら、下流の水はとてきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。

下流ほど生活排水が川に流れこんでいます。私たちの家は、それが原因だと考えました。

調査から、下流の水はとてきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。

調査から、下流の水はとてきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。

かかわり 言語活動

振り回り まとめ

目的意識

【外部の方がかかわるポイント】

・外部の方から具体的な助言が得られる場を設定し、自信を深めさせたり、自分たちの考えのよい点や改善点への気づきを促したりします。

川をもっとよくなるために、自分たちにどんなことができるのかな。ボクスターを作って、対策を地域のの人に提案しよう。

川をよくするために、活動している人に、みんなの考えを伝えてみたほうがいいかな。

川をもっとよくなるために、自分たちにどんなことができるのかな。ボクスターを作って、対策を地域のの人に提案しよう。

学習課題

見通し

これまでの活動や調査を振り返って、対策を再考しよう。ボクスターにまとめてみよう。

地域の人に提案してみよう。「上流の水はきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。調査から、下流の水はとてきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。」

友達は川のメッセージをどのように考えているのかな。聞いてみよう。

友達の考えも聞いてみて、私の考える川のメッセージと似ている点があった。それは「魚」ということだ。私はこの地域の川がもっとよくなるように、地域の大人とともに活動していきたい。

かかわり 言語活動

振り回り まとめ

目的意識

【単元終末のポイント】

・これまでに書き綴った作文シートや成果物を読み直したり、情報を再構成したりすることを通して、自分の考えを明らかにさせ、新たな課題を追究する意欲を高めます。

自分が考える川のメッセージは何か。その考えをもっとよくなるように、みんなの考えを伝えてみたほうがいいかな。

友達は川のメッセージをどのように考えているのかな。聞いてみよう。

友達の考えも聞いてみて、私の考える川のメッセージと似ている点があった。それは「魚」ということだ。私はこの地域の川がもっとよくなるように、地域の大人とともに活動していきたい。

学習課題

見通し

これまでの活動や調査を振り返って、対策を再考しよう。ボクスターにまとめてみよう。

地域の人に提案してみよう。「上流の水はきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。調査から、下流の水はとてきれいな水がかなり汚いよ。原因は何だろう。」

友達は川のメッセージをどのように考えているのかな。聞いてみよう。

友達の考えも聞いてみて、私の考える川のメッセージと似ている点があった。それは「魚」ということだ。私はこの地域の川がもっとよくなるように、地域の大人とともに活動していきたい。

かかわり 言語活動

振り回り まとめ

自己決定／個性・能力 子どもが調べることを決め、課題解決を図るように、観察や作文シートなどから思いや願いを把握し、共感して働きかけます。

協同性 子どもがお互いの良さを認め合い、一体感や絆を深めるように、友達や地域の方などと協力して課題解決に取り組む場を設定します。

年間指導計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		地域の川で活動するI			地域の川で活動するII			地域に向けて発表する		活動を振り返る	
水辺が整備されている川へ行き、活動する。	水質がよい川へ行き、活動する。	夏休みの追究			水質的、環境的によくない川に行き、活動し、調査したことをまとめる。			地域の川をよくするための対策を考え、資料をまとめ、地域の大人に発表する。		地域の川と自分とのかかわりについて、考えをまとめる。	